

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成29年12月22日
【事業年度】	第14期（自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日）
【会社名】	KONOIKE Co. 株式会社
【英訳名】	KONOIKE CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 外山 武志
【本店の所在の場所】	静岡県浜松市中区元城町216番地の11
【電話番号】	053(455)0661(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役総務部長 袴田 幸敏
【最寄りの連絡場所】	静岡県浜松市中区元城町216番地の11
【電話番号】	053(455)0661(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役総務部長 袴田 幸敏
【縦覧に供する場所】	該当ありません

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

提出会社の経営指標等

回次	第10期	第11期	第12期	第13期	第14期
決算年月	平成25年9月	平成26年9月	平成27年9月	平成28年9月	平成29年9月
売上高 (百万円)	4,782	5,062	4,152	4,558	4,626
経常利益 (百万円)	133	141	35	80	204
当期純利益 (百万円)	133	142	33	79	74
持分法を適用した場合の投資利益 (百万円)	-	-	-	-	-
資本金 (百万円)	78	78	78	78	78
発行済株式総数 (株)	13,020,000	13,020,000	13,020,000	13,020,000	13,020,000
純資産額 (百万円)	5	136	157	223	272
総資産額 (百万円)	2,424	2,188	2,253	2,198	2,008
1株当たり純資産額 (円)	0.45	10.49	12.10	17.15	20.93
1株当たり配当額 (円)	-	1.00	1.00	2.00	2.00
(うち1株当たり中間配当額)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
1株当たり当期純利益 (円)	10.25	10.95	2.61	6.07	5.73
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	0.2	6.2	7.0	10.2	13.6
自己資本利益率 (%)	-	218.0	23.1	41.5	30.1
株価収益率 (倍)	-	-	-	-	-
配当性向 (%)	-	9.13	38.31	32.95	34.90
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	544	98	182	285	67
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	16	60	67	4	12
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	160	160	94	243	178
現金および現金同等物の期末残高 (百万円)	842	643	798	845	722
従業員数 (人)	74	67	66	60	58
[外、平均臨時雇用者数]	[11]	[13]	[11]	[12]	[15]

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 「潜在株式調整後1株当たり当期純利益」については、潜在株式がないため記載しておりません。

3. 第10期の「自己資本利益率」については、期中平均自己資本額がマイナスとなるため記載しておりません。

2【沿革】

昭和57年6月	静岡県浜松市において資本金3,000万円で鴻池都市開発株式会社を設立（不動産売買、仲介、賃貸借、管理、宅地造成分譲）
平成4年6月	宅地建物取引業法により静岡県知事(1)第10299号の免許を受ける
平成5年4月	鴻池不動産株式会社に商号変更
平成12年8月	静岡県静岡市に静岡支店開設
平成14年2月	本社を現在地に移転
平成14年8月	マンション管理適正化法により国土交通大臣(1)51694号の登録を受ける
平成14年9月	資本金を4,000万円に増資
平成15年4月	建設業法により静岡県知事許可(特-15)第32442号の許可を受ける
平成15年9月	資本金を9,000万円に増資
平成16年6月	鴻池建設株式会社(資本金63,600万円)を吸収合併し、商号をKONOIKE Co. 株式会社に変更 建築士法による静岡県知事登録(1)第6225号を承継する
平成16年6月	新株発行により資本金を31,800万円とする
平成17年7月	資本金を6,360万円とする
平成17年7月	連結子会社である三ヶ日採石株式会社の株式を売却
平成21年6月	建設業法により国土交通大臣許可(特-21)第23099号の許可を受ける
平成22年3月	建設業法により静岡県知事許可(特-21)第36030号の許可を受ける
平成23年9月	新株発行により資本金を7,860万円とする
平成24年4月	賃貸住宅管理業者登録規程により国土交通大臣(1)第1743号の登録を受ける

3【事業の内容】

当社の事業は、賃貸マンション、主にオリジナル商品である「GS(グランストークマンション)」の設計・監理・施工・請負、及び既存建物のリノベーションを行う建設事業、並びに賃貸マンションの一括借上と入居者の募集・管理を行う不動産賃貸事業「GSS(グランストークシステム)」、並びに不動産の仕入・販売・仲介等を行う不動産売買仲介等事業の3つの事業から成っております。

当事業年度における、セグメント別の事業概要は次のとおりであります。

セグメント名	主な事業	事業の内容
建設事業	賃貸マンション等の建設	当社の主力商品であるGS(グランストークマンション)を中心とするマンション等の建設
	既存マンション等のリノベーション	築年数の経過した賃貸マンションの間取り・内装・設備等を現代のニーズに合った居住空間に改装する事業
	設計・監理	GSを中心とするマンション、住宅等の設計・監理
不動産賃貸事業	賃貸マンション等の一括借上と賃貸	主に当社が建築した賃貸マンションのオーナーと長期の借上契約を締結し、入居者の募集などの賃貸管理を行う
	賃貸マンションの入居者募集と管理	賃貸マンションのオーナーと管理契約を締結し、入居者の募集、管理を請負う
	自社ビルのスペース賃貸	当社所有オフィスビルのスペースを賃貸する事業
	不動産賃貸関連事業	入居者に対する保険販売等の関連業務
不動産売買仲介等事業	不動産販売	マンションや戸建て住宅の開発、販売業務
	不動産仲介	一般の土地建物仲介業務
	その他	上記に含まれない事業収益

4【関係会社の状況】

該当事項はありません。

5 【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

平成29年9月30日現在

従業員数(名)	平均年齢	平均勤続年数	平均年間給与(円)
58(15)	42歳6ヶ月	12年8ヶ月	4,452,157

- (注) 1. 従業員数は就業人数であり、臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員、嘱託社員含む。)は、年間の平均人員を()外数で記載しております。
 2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

なお、セグメント別の従業員数は次のとおりであります。

平成29年9月30日現在

セグメント名	従業員数(名)
建設事業	38(11)
不動産賃貸事業	15(2)
不動産売買仲介等事業	1(-)
報告セグメント計	54(13)
全社(共通)	4(2)
合計	58(15)

- (注) 1. 臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員、嘱託社員含む。)は、年間の平均人員を()外数で記載しております。
 2. 全社(共通)として記載されている従業員数は、管理部門に所属しているものであります。

(2) 労働組合の状況

従業員による労働組合その他の組織はありません。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 業績

当事業年度における我が国経済は、政府の経済対策や日銀の金融政策を背景に、雇用・所得環境の改善がみられ、穏やかな回復基調で推移しました。一方で、東アジア地域の情勢や、米国の政策方針による影響、英国のEU離脱問題等により為替・株式相場が不安定となるなど、経済への先行きについては不透明感が増すところとなりました。

このような状況の中、建設、不動産業界におきましては、日銀のマイナス金利政策による住宅金利の低下、政府の住宅支援策の追加等に伴い穏やかな持ち直し基調となっています。平成29年上期(1月～6月)の新規住宅着工件数は前事業年度比2.1%増となり、当社が主力とする賃貸住宅の分野でも貸家着工件数は前事業年度比4.7%増となりました。

このような経営環境の下、当社は得意分野の賃貸マンション事業に経営資源を集中し、営業推進体制を強化するとともに、財務体制の健全化に向けて鋭意努めてまいりました。当事業年度の業績につきましては、売上高4,626,466千円(前年同期比1.5%増)、損益につきましては、経常利益204,723千円(前年同期比155.7%増)、当期純利益74,553千円(前年同期比5.6%減)となりました。

セグメント別の業績につきましては、次のとおりであります。

建設事業におきましては、売上高は2,004,024千円(前年同期比6.1%増)となり、建設事業売上総利益は453,332千円(前年同期比35.4%増)となりました。

不動産賃貸事業におきましては、売上高は2,605,999千円(前年同期比1.3%増)となりましたが、不動産賃貸事業売上総利益は214,001千円(前年同期比8.2%減)となりました。

不動産売買仲介等事業におきましては、売上高は16,442千円(前年同期比83.4%減)となり、不動産売買仲介等事業売上総利益は15,646千円(前年同期比33.7%減)となりました。

(2) キャッシュ・フロー

当事業年度における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、短期借入金及び長期借入金の返済による支出、配当金の支払等により一部相殺されたものの、仕入債務の減少、未成工事受入金の減少、有形固定資産の取得等の要因により、前事業年度末に比べ123,157千円減少し、当事業年度末には722,276千円となりました。

また当事業年度中における各キャッシュ・フローは次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度において営業活動の結果獲得した資金は67,539千円(前年同期比76.3%減)にとどまりました。

これは主に減損損失の計上が52,631千円あったものの、未成工事受入金の減少が114,960千円あったことなど、流動負債の減少によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度において投資活動の結果使用した資金は12,529千円(前年同期は4,769千円の獲得)となりました。

これは主に、有形固定資産の取得による支出14,968千円があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度において財務活動の結果使用した資金は178,167千円(前年同期比26.7%減)となりました。

これは主に借入金の返済によるものです。

2【生産、受注及び販売の状況】

当社が営んでいる建設事業及び不動産事業等では生産実績を定義することが困難であり、建設事業においては請負形態をとっているため、販売実績という定義は実態にそぐいません。また、当社においては建設事業以外では受注生産形態をとっていません。

建設業における受注工事高及び施工高の状況

(1) 受注工事高、完成工事高、繰越工事高及び施工高

第13期（自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日）

	前事業年度繰越工事高 (千円)	当事業年度受注工事高 (千円)	計(千円)	当事業年度完成工事高 (千円)	翌事業年度繰越工事高		当事業年度施工高 (千円)
					手持工事高 (千円)	うち施工高(千円)	
建設工事	1,727,768	1,723,213	34,509,981	1,886,108	1,564,872	1.5 23,107	1,891,598

第14期（自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日）

	前事業年度繰越工事高 (千円)	当事業年度受注工事高 (千円)	計(千円)	当事業年度完成工事高 (千円)	翌事業年度繰越工事高		当事業年度施工高 (千円)
					手持工事高 (千円)	うち施工高(千円)	
建設工事	1,564,872	1,195,864	2,760,737	1,989,028	771,708	0.2 1,468	1,967,390

- (注) 1. 前事業年度以前に受注したもので、契約の更改により請負金額に変更のあるものについては、当事業年度受注工事高にその増減額を含みます。したがって当事業年度未完成工事高にもかかる増減額が含まれておりません。
2. 翌事業年度繰越工事高の施工高は、未成工事支出金により手持ちの施工高を推定したものです。
3. ()内の数字は、当社が施工販売する戸建住宅等の工事高(内数)であります。

(2) 受注工事の受注方法別比率

建設工事の受注方法は、特命と競争に大別されます。

期別	区分	特命 (%)	競争 (%)	計 (%)
第13期 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)	建設工事	100.0	-	100.0
第14期 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)	建設工事	100.0	-	100.0

(注) 百分比は請負金額比であります。

(3) 売上高

完成工事高

期別	区分	官公庁(千円)	民間(千円)	合計(千円)
第13期 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)	建設工事	-	1,886,108	1,886,108
第14期 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)	建設工事	-	1,989,028	1,989,028

第13期完成工事のうち主なもの

浜松市中区鴨江賃貸マンション新築工事
 静岡市駿河区敷地賃貸マンション新築工事
 静岡市葵区瓦場町賃貸マンション新築工事

第14期完成工事のうち主なもの

静岡市駿河区西脇賃貸マンション新築工事
 浜松市東区原島賃貸マンション新築工事
 浜松市中区曳馬賃貸マンション新築工事

不動産事業等売上高

期別	区分	売上高(千円)
第13期 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)	土地分譲事業	61,844
	不動産賃貸事業	2,543,150
	その他	66,949
	合計	2,671,943
第14期 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)	土地分譲事業	-
	不動産賃貸事業	2,571,152
	その他	66,285
	合計	2,637,437

第13期不動産賃貸事業等売上の主なもの

不動産賃貸事業等売上高の主なものは、賃貸マンションの借り上げをおこなう、不動産賃貸事業であります。

第14期不動産賃貸事業等売上の主なもの

不動産賃貸事業等売上高の主なものは、賃貸マンションの借り上げをおこなう、不動産賃貸事業であります。

当事業年度の売上高をセグメント別に示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	区分	当事業年度 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)	前年同期比(%)
建設事業(千円)	建設工事	1,989,028	5.4
	その他	14,996	1,238.8
	小計	2,004,024	6.1
不動産賃貸事業(千円)	不動産賃貸事業	2,571,152	1.1
	その他	34,847	23.9
	小計	2,605,999	1.3
不動産売買仲介等事業(千円)	土地分譲事業	-	-
	不動産仲介事業	14,614	43.5
	その他	1,827	84.5
	小計	16,442	83.4
合計(千円)		4,626,466	1.5

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
 2. 上記の金額には、内部取引は含まれておりません。

(4) 手持工事高

区分	官公庁(千円)	民間(千円)	合計(千円)
建設工事	-	771,708	771,708

手持工事のうち主なもの

浜松市中区西浅田賃貸マンション新築工事
 掛川市南賃貸マンション新築工事
 静岡市駿河区下川原賃貸マンション新築工事

3【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

(1)経営理念

「KONOIKEはお客様と社員が「夢」と「誇り」と「喜び」を共創できる素晴らしい会社を目指します。」

(2)経営方針

・期待超越

KONOIKEは、お客様の期待を超える商品を提供し常にお客様から必要とされる会社であり続けます。

・創造革新

KONOIKEは、常に創意と工夫を積み重ね革新し進化する会社であり続けます。

・幸福舞台

KONOIKEは、社員と社員の家族の幸福を追求し、希望と生きがいの持てる会社であり続けます。

・健全公正

KONOIKEは、持続的な発展を図るために、健全かつ公正な経営をめざし会社を取り巻くさまざまな方面の期待に応え続けます。

・環境共生

KONOIKEは、環境の保全や創造に配慮し社会から信頼される会社であり続けます。

(3)経営環境、経営戦略、目標とする経営指標、及び対処すべき課題

当社を取り巻く経営環境において、平成27年1月の相続税法の改正を背景に、土地所有者の資産活用や資産継承ニーズによる有効な節税対策として、賃貸住宅の建設需要は底堅く推移しております。また、賃貸住宅の入居者需要は少子化、高齢化や晩婚化の進行により1人住まいの総世帯数が増加することにより、日本の総世帯数は平成31年まで増加するものと予測され、引き続き堅調に推移するものと見込まれております。

このような環境の下、当社が安定経営を確立していくためには、引き続き賃貸マンション事業に経営資源を集中させていく経営戦略が必要であると考えております。

当社は賃貸マンションを供給する企業として、入居者需要の予測に基づく賃貸マンションの建設から入居者募集・管理に至る賃貸経営に必要なワン・ストップサービスをGSS（グランストークシステム）として提供し、単なる節税対策ではなく総合的な資産の運用サポートを通じて、安定した新築受注を獲得できる体制を構築してまいります。

そのために、当社の主力事業である建設事業においては、価格競争力のある新商品の開発、品質の確保や施工体制の一層の強化を図り、生産性の向上にも注力してまいります。同じく不動産賃貸事業においては、管理業務の効率化及び収益力の改善を図るとともに、地域の仲介業者や他の協力先との連携を密にし、積極的な情報収集活動を行ってまいります。

なお、当社の平成30年9月期のセグメントにおける業績目標は、以下の通りであります。

（単位：百万円）

業績目標	自平成28年10月1日 至平成29年9月30日 (当事業年度実績)	自平成29年10月1日 至平成30年9月30日
売上高	4,626	4,590
建設事業	2,004	1,850
不動産賃貸事業	2,605	2,700
不動産売買仲介等事業	16	40
売上総利益	682	557
建設事業	453	282
不動産賃貸事業	214	240
不動産売買仲介等事業	15	35

4【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、有価証券報告書提出日現在において当社が判断したものであります。

(1) 工事中資材等の価格変動

工事中資材等の原材料価格等が高騰した際、それを工事中請負金額に反映できない場合には、当社の業績に影響を与える可能性があります。

(2) 一括借上げ事業について

当社は、賃貸住宅の建築工事を請け負い、希望する建築主には賃貸住宅の一括借上げを行っております(GSS(グランストークシステム))。これは満室時家賃を基に、地域等の状況に見合う借上げ家賃を設定し、契約に従った一定期間の家賃収入を保証するものであります。これらの借上げ物件については空室率によって、業績に影響を与えております。

(3) 法的規制について

当社の行う事業については、建築基準法、宅地建物取引業法、都市計画法、国土利用計画法、特定建設業の許認可等の法的規制を受けており、これらの関係法令の改正等により当社の経営実績に影響を受ける可能性があります。

(4) 建設施工に伴う事故について

当社は、建設業法、労働関係法令その他関係法令を遵守すると共に、工事の施工に際しては、安全教育の実施、危険予知活動や安全点検パトロール等により災害撲滅活動を実施していますが、万一、法令違反や人身、施工物などに関わる重大な事故が発生した場合は、当社の経営や企業評価に影響を及ぼす可能性があります。

5【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6【研究開発活動】

該当事項はありません。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当事業年度末現在において当社が判断したものであります。

(1) 重要な会計方針および見積り

当社の財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準にもとづき作成されています。この財務諸表の作成のための重要な会計基準等は、「第5 経理の状況 1 財務諸表の作成方法について」に記載しております。

(2) 当事業年度の財政状態の分析

(資産の部)

資産合計は、前事業年度末と比較して189,931千円減少して、2,008,564千円となりました。これは現金預金が123,157千円、未成工事支出金が10,738千円、及び有形固定資産が65,400千円等、減少したためです。

(負債の部)

負債合計は、前事業年度末と比較して239,161千円減少して、1,736,067千円となりました。これは、主に未払法人税及び未払事業税が74,958千円、未払金が18,076千円増加したものの、短期借入金、及び長期借入金(1年以内返済予定の長期借入金を含む)が151,159千円、未成工事受入金が114,960千円等、減少したためです。

(純資産の部)

純資産合計は、前事業年度末と比較して49,229千円増加して、272,496千円となりました。これは、主に当期純利益74,553千円の計上により繰越利益剰余金が増加したためです。

(3) 当事業年度の経営成績の分析

当事業年度における経営成績については「第2 [事業の状況] 1 [業績等の概要]」をご参照下さい。

なお、「第2 [事業の状況] 3 [経営方針、経営環境及び対処すべき課題等] 及び4 [事業等のリスク]」を合わせてご参照下さい。

(4) 資本の財源及び資金の流動性の分析

キャッシュ・フローの分析

当事業年度におけるキャッシュ・フローの概要については「第2 [事業の状況] 1 [業績等の概要] (2) キャッシュ・フロー」をご参照下さい。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当事業年度において重要な設備の新設及び除却、売却等はありません。

2【主要な設備の状況】

当社が所有する主要な不動産と関連する設備は次のとおりであります。

平成29年9月30日現在

事業所名 (所在地)	セグメント別 の名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
			建物及び構 築物 (千円)	工具器具・ 備品及び車 両運搬具 (千円)	土地 (千円) (面積㎡)	その他 (千円)	合計 (千円)	
本社 (静岡県浜松市中区)	不動産賃貸事 業 他	本社事務所他	79,380	9,361	223,650 848.63	-	312,391	35
グランストーク奥浜名 湖 他 (静岡県浜松市北区)	不動産賃貸事 業	賃貸マンショ ン	186,323	22	305,031 4,041.29	-	491,377	-
ラ・フォーレ入野 (静岡県浜松市西区)	不動産賃貸事 業	賃貸マンショ ン	35,696	-	24,393 169.10	-	60,089	-
ユニライフ浜松 (静岡県浜松市中区)	不動産賃貸事 業	賃貸マンショ ン	5,159	-	10,918 29.25	-	16,078	-
静岡支店 ほか1支店	建設事業 他	事務所設備他	343	6,348	-	-	6,691	23

3【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

該当事項はありません。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	50,880,000
計	50,880,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成29年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成29年12月22日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	13,020,000	13,020,000	非上場	当社は単元株 制度は採用し ておりませ ん。
計	13,020,000	13,020,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成23年9月21日 (注)	300	13,020	15	78	-	4

(注) 有償第三者割当 300千株
 発行価格 50円
 資本組入額 50円

(6)【所有者別状況】

平成29年9月30日現在

区分	株式の状況							計	単元未満株 式の状況 (株)
	政府及び地 方公共団体	金融機関	金融商品取 引業者	その他の法 人	外国法人等		個人その他		
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	1	-	28	-	-	1,010	1,039	-
所有株式数 (株)	-	600,000	-	1,019,000	-	-	11,401,000	13,020,000	-
所有株式数の 割合(%)	-	4.6	-	7.8	-	-	87.6	100.0	-

(7) 【大株主の状況】

平成29年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社清水銀行	静岡県清水区富士見町2番1号	600,000	4.60
宇都 晴美	浜松市北区	591,000	4.53
佐藤 温子	静岡市葵区	585,000	4.49
拓殖株式会社	浜松市北区三方原町756番地1	576,000	4.42
外山 武志	浜松市中区	513,000	3.94
二橋 弘安	浜松市浜北区	442,000	3.39
原田 多加資	周智郡森町	426,000	3.27
福山 淳平	浜松市中区	400,000	3.07
谷高 博	磐田市	361,500	2.77
小枝 弘征	浜松市東区	272,000	2.08
計	-	4,766,500	36.61

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成29年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式13,020,000	13,020,000	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	-	-	-
発行済株式総数	13,020,000	-	-
総株主の議決権	-	13,020,000	-

【自己株式等】

平成29年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
-	-	-	-	-	-
計	-	-	-	-	-

(9) 【ストックオプション制度の内容】
該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 該当事項はありません。

(1) 【株主総会決議による取得の状況】
該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】
該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】
該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】
該当事項はありません。

3 【配当政策】

当社は、利益配分につきましては、業績に対応した配当を行うことを基本とし、会社の競争力を維持し、収益力の向上に努め、企業体質の強化と今後の事業展開に備えるための内部留保の充実などを勘案して決定することを基本方針としております。

当社は、期末配当として年1回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

この剰余金の配当の決定機関は株主総会であります。

当事業年度の配当につきましては、上記方針に基づき1株当たり2円の配当を実施することを決定しました。この結果、当事業年度の配当性向は34.9%となりました。

当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
平成29年12月21日 定時株主総会決議	26,040	2

4 【株価の推移】

金融商品取引所非上場のため該当事項はありません。

5【役員状況】

男性 7名 女性 -名 (役員のうち女性の比率 -%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役会長 (代表取締役)		宇都 晴美	昭和23年6月12日	昭和52年1月 鴻池建設㈱入社 昭和60年12月 鴻池建設㈱取締役就任 平成6年6月 鴻池建設㈱退社 ユーホーム㈱代 表取締役就任 平成8年11月 鴻池建設㈱入社 平成8年12月 当社取締役就任 平成11年10月 当社代表取締役社長就任 平成26年12月 当社代表取締役会長就任(現任)	(注)1	591
取締役社長 (代表取締役)		外山 武志	昭和45年5月11日	平成5年4月 鴻池建設㈱入社 平成19年4月 当社浜松支店長 平成22年4月 当社執行役員不動産部長 平成23年12月 当社取締役就任 平成25年10月 当社常務取締役就任 不動産事業 部長 平成26年12月 当社代表取締役社長就任(現任)	(注)1	513
専務取締役	品質保証部長 不動産事業部 長	二橋 弘安	昭和28年7月10日	昭和53年8月 鴻池建設㈱入社 平成10年10月 建設部長 平成11年12月 鴻池建設㈱取締役就任 建設本部 長 平成14年11月 当社取締役就任 平成25年10月 当社専務取締役就任 品質保証部 長(現任) 平成26年12月 当社不動産事業部長(現任)	(注)1	442
常務取締役	建設事業部長	福山 淳平	昭和29年7月29日	昭和53年3月 鴻池建設㈱入社 平成12年10月 鴻池建設㈱お客様サービス、リ フォーム部長 平成15年10月 鴻池建設㈱積算購買部長 平成17年6月 当社取締役就任 平成24年4月 当社常務取締役就任 建設事業部 長(現任)	(注)1	400
取締役	総務部長	袴田 幸敏	昭和37年11月5日	平成15年3月 当社入社 平成19年4月 当社総務課長 平成23年10月 当社総務部副部長 平成24年10月 当社総務部長 平成25年12月 当社取締役就任 総務部長(現任)	(注)1	270
監査役		谷高 博	昭和23年8月12日	平成8年6月 鴻池建設㈱入社 平成11年10月 鴻池建設㈱総務部副部長 平成13年11月 当社監査役就任(現任)	(注)2	361
監査役		服部 茂	昭和25年1月28日	昭和55年6月 鴻池建設㈱入社 平成12年10月 鴻池建設㈱総務部長 平成15年10月 鴻池建設㈱人事部長 平成17年6月 当社取締役就任 総務部長 平成24年12月 当社監査役就任(現任)	(注)2	250
計						2,827

(注)1.平成29年12月21日開催の定時株主総会の終結の時から2年間

2.平成28年12月20日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、コーポレート・ガバナンスをグループ全体の最重要課題と強く認識しており、コンプライアンス（法令遵守）とアカウンタビリティ（説明責任）を中心に、常に基本に基づいた経営に徹し、社会環境の変化にも対応しうるコーポレート・ガバナンス体制の構築に積極的に取り組むことを経営上の重要な課題と位置づけております。

(1) 会社機関の内容について

当社は、会社の機関として会社法に規定する取締役会及び監査役を設置しており、重要な業務執行の決議、監督及び監査を行っております。

平成29年9月末日現在、役員は取締役5名 監査役2名となっております。

取締役会は定期的に行われる定例取締役会のほか、必要に応じて随時開催しており、グループ全体の経営事項等について協議し、監査役2名も毎回出席し、全ての議事に関して監査役の立場から適切な意見や助言を述べております。

また監査役は、適宜、取締役会の業務執行状況及び各取締役の業務執行についての協議を行っております。

当社の会計監査業務を執行した公認会計士は松島知次(当事業年度を含む継続関与会計期間12年)であり、監査業務に係る補助者は、公認会計士2名であり、また審査は当社の監査業務に補助者等として関わることのない公認会計士1名が行っております。

(2) 内部統制システム及びリスク管理体制について

当社の内部統制システムとしましては、内部統制の有効性及び業務遂行状況の監視は、監査役が定期的に業務監査を実施し、改善事項の指摘と指導を取締役に報告し、改善を求めていくシステムとなっております。

当社のリスク管理体制は、毎月1回開催の常勤役員会にて重要な法的課題及びコンプライアンス、経営上の問題点等を随時協議しているほか、弁護士、司法書士、税理士等、各々の外部専門家と契約を締結し、必要に応じアドバイスを受けて万全な体制を構築対処しております。

内部監査は、内部監査担当者を1名定め、各部門の定期的視察、指導を行っております。なお、監査役、内部監査担当者及び公認会計士は、必要に応じて連携を取り、監査業務を行っております。

(3) 役員報酬の内容について

当事業年度における取締役5名に対する報酬は65,400千円、監査役2名に対する報酬は8,376千円、役員報酬の合計は73,776千円であります。また、役員退職慰労引当金繰入額として、取締役(5名)1,462千円、監査役(2名)176千円があります。

(4) 取締役の定数

当社は、取締役の定数について、3名以上とする旨を定めております。

(5) 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議については、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行います。また、累積投票によらないものとする旨を定めております。

(6) 取締役の任期

当社は、取締役の任期について、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までとする旨を定めております。

(7) 株主総会の決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める特別決議要件については、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

前事業年度		当事業年度	
監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)	監査証明業務に基づく報酬 (千円)	非監査業務に基づく報酬 (千円)
4,800	-	4,800	-

【その他重要な報酬の内容】

(前事業年度)

該当事項はありません。

(当事業年度)

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前事業年度)

該当事項はありません。

(当事業年度)

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針としましては、監査日数等を勘案した上で決定しております。

第5【経理の状況】

1．財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づき、同規則及び「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第24号）により作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度（平成28年10月1日から平成29年9月30日まで）の財務諸表について、公認会計士浜松国際共同事務所 公認会計士松島知次により監査を受けております。

3．連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、連結財務諸表を作成しておりません。

4．財務諸表等の適正を確保するための特段の取組みについて

当社は会計基準等の内容を適切に把握する目的でディスクロージャー実務に関する研究会に参加しております。

1【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年9月30日)	当事業年度 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	854,433	731,276
受取手形	2,343	211
完成工事未収入金	33,305	41,118
未収入金	3,098	3,621
未成工事支出金	11,822	1,084
短期貸付金	2,996	2,845
その他	12,333	16,005
貸倒引当金	1,442	1,780
流動資産合計	918,892	794,382
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,554,510	1,556,110
減価償却累計額	231,879	248,818
建物(純額)	1,322,631	1,307,292
構築物	1,27,550	1,27,550
減価償却累計額	25,641	26,842
構築物(純額)	1,1,908	1,707
車両運搬具	2,819	8,774
減価償却累計額	2,070	3,671
車両運搬具(純額)	749	5,102
工具器具・備品	53,153	53,287
減価償却累計額	48,992	45,039
工具器具・備品(純額)	4,161	8,247
土地	1,854,619	1,801,987
リース資産	11,829	3,346
減価償却累計額	6,758	2,945
リース資産(純額)	5,070	401
有形固定資産合計	1,189,140	1,123,739
無形固定資産		
電話加入権	4,912	4,912
ソフトウェア	4,814	3,883
リース資産	2,970	1,980
無形固定資産合計	12,696	10,776
投資その他の資産		
投資有価証券	2,698	3,610
出資金	895	895
会員権	7,419	8,069
長期貸付金	42,050	37,962
差入保証金	27,225	26,314
長期前払費用	809	961
その他	4,976	9,256
貸倒引当金	8,308	7,403
投資その他の資産合計	77,766	79,665
固定資産合計	1,279,603	1,214,181
資産合計	2,198,495	2,008,564

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年9月30日)	当事業年度 (平成29年9月30日)
負債の部		
流動負債		
工事未払金	177,894	120,343
短期借入金	175,000	-
1年内返済予定の長期借入金	1136,514	1131,147
リース債務	5,935	1,577
未払金	42,807	60,883
未払法人税等	462	75,420
未払消費税等	27,987	19,821
未成工事受入金	288,854	173,894
前受家賃	104,312	117,256
預り金	31,772	35,349
賞与引当金	13,373	-
完成工事補償引当金	4,381	5,624
その他	5,968	8,905
流動負債合計	915,264	750,224
固定負債		
長期借入金	1910,966	1840,173
預り保証金	72,011	64,334
リース債務	2,721	1,143
退職給付引当金	33,152	33,245
繰延税金負債	-	195
役員退職慰労引当金	16,897	18,535
家賃保証引当金	14,829	21,551
その他	9,386	6,664
固定負債合計	1,059,963	985,843
負債合計	1,975,228	1,736,067
純資産の部		
株主資本		
資本金	78,600	78,600
資本剰余金		
資本準備金	4,147	4,147
資本剰余金合計	4,147	4,147
利益剰余金		
利益準備金	3,876	6,480
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	136,973	182,882
利益剰余金合計	140,849	189,362
株主資本合計	223,596	272,110
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	330	386
評価・換算差額等合計	330	386
純資産合計	223,266	272,496
負債純資産合計	2,198,495	2,008,564

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)	当事業年度 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)
売上高		
完成工事高	1,886,108	1,989,028
不動産事業等売上高	1 2,671,943	1 2,637,437
売上高合計	4,558,052	4,626,466
売上原価		
完成工事原価	1,551,773	1,544,669
不動産事業等売上原価	2,414,717	2,398,816
売上原価合計	3,966,490	3,943,486
売上総利益		
完成工事総利益	334,335	444,359
不動産事業等売上総利益	257,226	238,620
売上総利益合計	591,561	682,980
販売費及び一般管理費		
役員報酬	71,274	73,776
役員退職慰労引当金繰入額	1,478	1,638
給料	188,826	190,565
賞与引当金繰入額	13,495	-
退職給付費用	2,758	1,424
法定福利費	38,872	36,406
福利厚生費	2,369	2,883
広告宣伝費	12,206	12,923
旅費及び交通費	9,434	9,483
通信費	5,483	5,096
交際費	11,258	10,547
賃借料	25,731	22,407
修繕費	1,617	5,207
減価償却費	9,653	13,123
事務用消耗品費	5,188	2,328
図書印刷費	8,338	7,251
寄付金	135	1,141
水道光熱費	6,339	5,974
保険料	5,511	5,274
支払手数料	28,723	27,132
租税公課	6,633	8,720
研修会議費	1,705	1,616
会費	1,609	1,605
調査費	2,061	2,328
貸倒引当金繰入額	3,041	-
雑費	8,094	2,128
販売費及び一般管理費合計	471,841	450,985
営業利益	119,719	231,994

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)	当事業年度 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)
営業外収益		
受取利息	928	784
受取配当金	90	88
貸倒引当金戻入額	-	566
保険料差益	2,079	1,255
違約金収入	-	360
雑収入	504	338
営業外収益合計	3,603	3,393
営業外費用		
支払利息	43,071	30,555
雑損失	197	109
営業外費用合計	43,269	30,664
経常利益	80,053	204,723
特別損失		
ゴルフ会員権売却損	555	-
減損損失	-	2 52,631
特別損失合計	555	52,631
税引前当期純利益	79,498	152,092
法人税、住民税及び事業税	462	77,539
法人税等合計	462	77,539
当期純利益	79,035	74,553

【完成工事原価明細書】

区分	注記 番号	第13期 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)		第14期 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
材料費		99,570	6.4	99,385	6.4
外注費		1,156,590	74.5	1,152,020	74.6
経費		295,612	19.1	293,263	19.0
(うち人件費)		(175,723)	(11.3)	(166,381)	(10.8)
(うち完成工事補償引当金 繰入)		(4,381)	(0.2)	(5,624)	(0.4)
		1,551,773	100.0	1,544,669	100.0

【不動産事業等売上原価明細書】

区分	注記 番号	第13期 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)		第14期 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
不動産事業等					
土地建物売上原価		65,838	2.7	-	-
不動産賃貸事業売上原価		2,337,374	96.8	2,390,366	99.6
(うち家賃保証引当金繰入)		(-)	(-)	(6,722)	(0.3)
(うち家賃保証引当金戻入 ())		(4,142)	(0.2)	(-)	(-)
その他の売上原価		11,503	0.5	8,450	0.4
		2,414,717	100.0	2,398,816	100.0

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日）

(単位：千円)

	株主資本					株主資本合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金		利益剰余金合計	
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金		
				繰越利益剰余金		
当期首残高	78,600	4,147	2,574	72,259	74,833	157,581
当期変動額						
剰余金の配当			1,302	14,322	13,020	13,020
当期純利益				79,035	79,035	79,035
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）						
当期変動額合計	-	-	1,302	64,713	66,015	66,015
当期末残高	78,600	4,147	3,876	136,973	140,849	223,596

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額 等合計	
当期首残高	32	32	157,549
当期変動額			
剰余金の配当			13,020
当期純利益			79,035
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	298	298	298
当期変動額合計	298	298	65,717
当期末残高	330	330	223,266

当事業年度（自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日）

（単位：千円）

	株主資本					株主資本合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金			
		資本準備金	利益準備金	その他利益剰余金	利益剰余金合計	
				繰越利益剰余金		
当期首残高	78,600	4,147	3,876	136,973	140,849	223,596
当期変動額						
剰余金の配当			2,604	28,644	26,040	26,040
当期純利益				74,553	74,553	74,553
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）						
当期変動額合計	-	-	2,604	45,909	48,513	48,513
当期末残高	78,600	4,147	6,480	182,882	189,362	272,110

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額 等合計	
当期首残高	330	330	223,266
当期変動額			
剰余金の配当			26,040
当期純利益			74,553
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	716	716	716
当期変動額合計	716	716	49,229
当期末残高	386	386	272,496

【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)	当事業年度 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益	79,498	152,092
減価償却費	24,237	27,675
賞与引当金の増減額(は減少)	3,265	13,373
退職給付引当金の増減額(は減少)	5,575	93
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	1,478	1,638
完成工事補償引当金の増減額(は減少)	840	1,243
家賃保証引当金の増減額(は減少)	4,142	6,722
貸倒引当金の増減額(は減少)	3,041	566
受取利息及び受取配当金	1,019	873
支払利息	43,071	30,555
有形固定資産除却損	190	96
ゴルフ会員権売却損益(は益)	555	-
減損損失	-	52,631
売上債権の増減額(は増加)	17,611	5,680
たな卸資産の増減額(は増加)	49,781	10,684
仕入債務の増減額(は減少)	52,577	39,474
未成工事受入金の増減額(は減少)	44,419	114,960
前受家賃の増減額(は減少)	12,938	12,943
未払又は未収消費税等の増減額	9,563	8,165
その他の流動資産の増減額(は増加)	2,946	4,274
その他の流動負債の増減額(は減少)	5,461	4,582
その他の固定資産の増減額(は増加)	1,310	3,315
その他の固定負債の増減額(は減少)	9,438	7,677
小計	323,462	102,596
利息及び配当金の受取額	1,037	809
利息の支払額	38,453	33,285
法人税等の支払額	462	2,581
営業活動によるキャッシュ・フロー	285,584	67,539
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	108,000	108,000
定期預金の払戻による収入	108,000	108,000
有形固定資産の取得による支出	5,166	14,968
無形固定資産の取得による支出	2,710	1,150
ゴルフ会員権の取得による支出	-	650
ゴルフ会員権の売却による収入	1,944	-
貸付けによる支出	1,500	-
貸付金の回収による収入	12,201	4,239
投資活動によるキャッシュ・フロー	4,769	12,529
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	95,000	75,000
長期借入れによる収入	10,000	340,000
長期借入金の返済による支出	143,158	416,159
リース債務の返済による支出	2,976	2,899
配当金の支払額	11,962	24,108
財務活動によるキャッシュ・フロー	243,098	178,167
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	47,255	123,157
現金及び現金同等物の期首残高	798,177	845,433
現金及び現金同等物の期末残高	1,845,433	1,722,276

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

決算末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は総平均法により算定する)

時価のないもの

総平均法による原価法

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

主として個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切り下げの方法により算定)を採用しております。

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 10～47年

工具器具・備品 4～20年

なお、取得価額10万円以上20万円未満の少額減価償却資産については、3年間均等償却であります。

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(4) 少額減価償却資産

取得価額が10万円以上30万円未満の少額減価償却資産については、法人税法の規定に基づき、即時償却を行っております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に見積もった金額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(4) 完成工事補償引当金

完成工事に係る瑕疵担保の費用に備えるため実績繰入率による繰入限度額を計上しております。

(5) 家賃保証引当金

賃貸物件の一括借り上げにおける、空室等によって発生する損失に備えるため、一括借り上げ契約期間における損失見込額を計上しております。

(6) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく当事業年度末要支給額を計上しています。

5. 完成工事高の計上基準

当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

6. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、要求払預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない短期的な投資からなっております。

7. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

税抜き方式によっております。

(2) 控除対象外消費税

発生事業年度の費用として処理しております。

(追加情報)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当事業年度から適用しております。

(貸借対照表関係)

1. 担保資産及び担保付債務

前事業年度(平成28年9月30日)

下記の資産を短期借入金75,000千円、長期借入金(1年以内返済予定分含む)801,630千円の担保に供しております。

1	建物、構築物	280,367千円
2	土地	783,643
計		1,064,010

当事業年度(平成29年9月30日)

下記の資産を長期借入金(1年以内返済予定分含む)759,670千円の担保に供しております。

1	建物、構築物	265,680千円
2	土地	745,060
計		1,010,741

2. 保証債務

賃貸マンション借上契約者に対する建設資金の銀行借入保証

	前事業年度 (平成28年9月30日)		当事業年度 (平成29年9月30日)
1名	44,310千円	1名	39,291千円

(損益計算書関係)

1. 不動産事業等売上原価に含まれる控除対象外消費税の額

	前事業年度 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)		当事業年度 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)
	16,359千円		16,907千円

2. 減損損失

当事業年度において、当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類
愛知県豊橋市	遊休資産	土地
静岡県磐田市	遊休資産	土地
静岡県浜松市北区	遊休資産	土地
静岡県浜松市浜北区	遊休資産	土地

当社は、原則として、事業用資産については事業部を基準としてグルーピングを行っており、遊休資産については個別資産ごとにグルーピングを行っております。

当事業年度において、事業の用に供していない遊休資産のうち、時価が著しく下落した資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(52,631千円)として特別損失に計上しました。

(株主資本等変動計算書関係)

第13期(自平成27年10月1日至平成28年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末株式数(株)
発行済株式				
普通株式	13,020,000	-	-	13,020,000
合計	13,020,000	-	-	13,020,000
自己株式				
普通株式	-	-	-	-
合計	-	-	-	-

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成27年12月17日 定時株主総会	普通株式	13,020	1	平成27年9月30日	平成27年12月18日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額(千円)	配当の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
平成28年12月20日 定時株主総会	普通株式	26,040	利益剰余金	2	平成28年9月30日	平成28年12月21日

第14期（自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数（株）	当事業年度増加株式数（株）	当事業年度減少株式数（株）	当事業年度末株式数（株）
発行済株式				
普通株式	13,020,000	-	-	13,020,000
合計	13,020,000	-	-	13,020,000
自己株式				
普通株式	-	-	-	-
合計	-	-	-	-

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年12月20日 定時株主総会	普通株式	26,040	2	平成28年9月30日	平成28年12月21日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年12月21日 定時株主総会	普通株式	26,040	利益剰余金	2	平成29年9月30日	平成29年12月22日

(キャッシュ・フロー計算書関係)

1. 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前事業年度 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)	当事業年度 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)
現金預金勘定	854,433千円	731,276千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	9,000	9,000
現金及び現金同等物	845,433	722,276

(リース取引関係)

(借主側)

ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

事業における車輛運搬具であります。

無形固定資産

ソフトウェアであります。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「3. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

設備投資計画に照らして、必要な資金(主に銀行借入)を調達しております。また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権は、顧客の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は、業務上の関係を有する企業の株式であり、価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である未払金及び工事未払金は、そのほとんどが1ヶ月以内の支払期日であります。

借入金は、主に設備投資に係る資金調達を目的としたものであり、償還日は最長で決算日後17年であります。このうち一部は、金利の変動リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

営業債権については、適時に、各事業部門における営業担当者が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに回収状況を吟味し、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。また、有価証券の運用等については、信用リスクのある債券運用は行っておりません。

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

市場リスクのある有価証券等などの運用は行っておりません。

手持ちの投資有価証券については、定期的に発行体(取引先企業)の財務状況等を把握しております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

担当者が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前事業年度（平成28年9月30日）

	貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金預金	854,433	854,433	-
(2) 受取手形及び売掛金	2,343	2,343	-
(3) 完成工事未収入金	33,305	33,305	-
(4) 未収入金	3,098	3,098	-
(5) 短期貸付金	2,996	2,996	-
(6) 投資有価証券	2,698	2,703	5
(7) 会員権	7,419	7,419	-
(8) 長期貸付金	42,050		
貸倒引当金	8,286		
	33,763	36,789	3,025
(9) 差入保証金	27,225	25,838	1,387
資産計	967,284	968,928	1,643
(1) 工事未払金	177,894	177,894	-
(2) 短期借入金	211,514	211,514	-
(3) リース債務(流動負債)	5,935	5,935	-
(4) 未払金	42,807	42,807	-
(5) 未成工事受入金	288,854	288,854	-
(6) 前受家賃	104,312	104,312	-
(7) 長期借入金	910,966	838,438	72,528
(8) 預り保証金	72,011	72,247	156
(9) リース債務(固定負債)	2,721	2,564	235
負債計	1,817,018	1,744,569	72,448

当事業年度（平成29年9月30日）

	貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金預金	731,276	731,276	-
(2) 受取手形及び売掛金	211	211	-
(3) 完成工事未収入金	41,118	41,118	-
(4) 未収入金	3,621	3,621	-
(5) 短期貸付金	2,845	2,845	-
(6) 投資有価証券	3,610	3,614	4
(7) 会員権	8,069	8,069	-
(8) 長期貸付金	37,962		
貸倒引当金	7,219		
	30,742	30,549	193
(9) 差入保証金	26,314	23,851	2,463
資産計	847,809	845,157	2,651
(1) 工事未払金	120,343	120,343	-
(2) 短期借入金	131,147	131,147	-
(3) リース債務(流動負債)	1,577	1,577	-
(4) 未払金	60,883	60,883	-
(5) 未成工事受入金	173,894	173,894	-
(6) 前受家賃	117,256	117,256	-
(7) 長期借入金	840,173	770,158	70,014
(8) 預り保証金	64,334	64,420	86
(9) リース債務(固定負債)	1,143	1,093	50
負債計	1,510,753	1,440,775	69,978

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法に関する事項

資 産

(1) 現金預金、(2) 受取手形及び売掛金、(3) 完成工事未収入金、(4) 未収入金、(5) 短期貸付金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(6) 投資有価証券

投資有価証券の時価は、市場価格のあるものは取引所の価格によっており、市場価格のないものは、1株当たり純資産額により算定しております。

(7) 会員権

会員権の時価は、取引相場等により算定しております。

(8) 長期貸付金

長期貸付金の時価は、元利金の合計額を国債利回り等、適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(9) 差入保証金

これらの時価は、返還予定日のある差入保証金については、将来キャッシュ・フローを国債利回り等、適切な指標で割り引いた現在価値により算定しております。また、返還予定日のない差入保証金については帳簿価額によっております。

負債

(1)工事未払金、(2)短期借入金、(3)リース債務(流動負債)、(4)未払金、(5)未成工事受入金、(6)前受家賃
これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(7)長期借入金、(9)リース債務(固定負債)

これらの時価は、新規に同様の借入または、リース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(8)預り保証金

預り保証金は、最近の平均入居年数を基に将来キャッシュ・フローを国債利回り等、適切な指標で割り引いた現在価値により算定しております。

2. 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額
前事業年度(平成28年9月30日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金預金	854,433	-	-	-
受取手形及び売掛金	2,343	-	-	-
完成工事未収入金	33,305	-	-	-
未収入金	3,098	-	-	-
長期貸付金	2,996	11,191	8,733	22,125
差入保証金	-	-	-	27,225
合計	896,178	11,191	8,733	49,351

当事業年度(平成29年9月30日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金預金	731,276	-	-	-
受取手形及び売掛金	211	-	-	-
完成工事未収入金	41,118	-	-	-
未収入金	3,621	-	-	-
長期貸付金	2,845	9,845	7,349	20,767
差入保証金	-	-	-	26,314
合計	779,073	9,845	7,349	47,082

3. 長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の決算日後の返済予定額
前事業年度（平成28年9月30日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	75,000	-	-	-	-	-
長期借入金	136,514	344,261	80,345	74,668	70,995	340,695
リース債務	5,935	1,577	1,143	-	-	-
合計	217,449	345,838	81,489	74,668	70,995	340,695

当事業年度（平成29年9月30日）

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	-	-	-	-	-	-
長期借入金	131,147	118,131	114,963	111,581	84,843	410,653
リース債務	1,577	1,143	-	-	-	-
合計	132,724	119,275	114,963	111,581	84,843	410,653

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前事業年度（平成28年9月30日）

	種類	貸借対照表計上 額 (千円)	取得原価(千 円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が取 得原価を超えるもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	-	-	-
貸借対照表計上額が取 得原価を超えないもの	(1) 株式	2,698	3,028	330
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	2,698	3,028	330
合計		2,698	3,028	330

当事業年度（平成29年9月30日）

	種類	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	3,600	3,018	581
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	3,600	3,018	581
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	10	10	-
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	10	10	-
合計		3,610	3,028	581

2.売却したその他有価証券

前事業年度（自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日）

該当事項はありません。

（デリバティブ取引関係）

前事業年度（平成28年9月30日）

当社はデリバティブ取引を利用していないため、該当事項はありません。

当事業年度（平成29年9月30日）

当社はデリバティブ取引を利用していないため、該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定給付型の制度として退職一時金または年金制度を設けており、また従業員の退職に際して割増退職金を支払う場合があります。

この退職金の支払いに備えるため、必要資金の内部留保の他に、中小企業退職金共済事業団に加入し、外部拠出を行っております。

なお、当社が有する退職金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

	前事業年度 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)	当事業年度 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)
退職給付引当金の期首残高	38,727千円	33,152千円
退職給付費用	8,230	7,073
退職給付の支払額	13,145	6,410
制度への拠出額	660	570
退職給付引当金の期末残高	33,152	33,245

(2) 退職給付債務、及び共済資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金、及び前払共済費用の調整表

	前事業年度 (平成28年9月30日)	当事業年度 (平成29年9月30日)
積立型制度の退職給付債務	6,491千円	5,497千円
共済資産	6,491	5,497
非積立型制度の退職給付債務	33,152	33,245
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	33,152	33,245
退職給付引当金	33,152	33,245
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	33,152	33,245

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用 前事業年度8,230 千円 当事業年度7,073 千円

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成28年9月30日)	当事業年度 (平成29年9月30日)
繰延税金資産		
貸倒引当金	3,292千円	2,994千円
賞与引当金	4,537	-
完成工事補償引当金	1,486	1,908
未払事業税	-	6,828
家賃保証引当金	5,031	7,241
退職給付引当金	11,248	11,170
役員退職慰労引当金	5,733	6,227
投資有価証券評価損	281	-
減損損失	82,927	99,805
繰越欠損金	2,086	-
その他	4,492	3,270
繰延税金資産小計	121,117	139,447
評価性引当額	121,117	139,447
繰延税金資産合計	-	-
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	-	195
繰延税金負債合計	-	195
繰延税金負債の純額	-	195

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成28年9月30日)	当事業年度 (平成29年9月30日)
法定実効税率	33.9%	33.6%
(調整)		
評価性引当額増減	38.1%	12.5%
交際費等永久に損金に算入されない項目	4.9%	2.4%
住民税均等割	0.6%	0.3%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	0.5%	- %
修正申告額等	- %	1.4%
その他	0.2%	0.8%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	0.6%	51.0%

(持分法損益等)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

該当事項はありません。

(賃貸等不動産関係)

当社では、静岡県浜松市内において、賃貸用のオフィスビル及びマンション(土地を含む。)を有しております。前事業年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は13,113千円(賃貸収益は不動産事業等売上高に、賃貸費用は不動産事業等売上原価に計上)であります。当事業年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は13,242千円(賃貸収益は不動産事業等売上高に、賃貸費用は不動産事業等売上原価に計上)であります。

また、当該賃貸等不動産の貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)	当事業年度 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)
貸借対照表計上額		
期首残高	966,224	947,344
期中増減額	18,879	63,662
期末残高	947,344	883,681
期末時価	876,843	809,002

- (注) 1. 貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。
2. 期中増減額のうち、前事業年度の主な増加額は、建物附属設備の取得(545千円)であります。主な減少額は、減価償却費(11,469千円)、自社ビルの賃貸部分比率の変更による差額(7,942千円)であります。当事業年度の主な減少額は、減価償却費(11,031千円)、減損損失(52,631千円)であります。
3. 事業年度末の時価は、主として社外の不動産鑑定士による不動産鑑定評価額に基づく金額によっていますが、賃貸不動産について自社で算定した割引キャッシュ・フローを加味して算定しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は事業本部を基礎としたセグメントから構成されており、「建設事業」、「不動産賃貸事業」及び「不動産売買仲介等事業」の3つの報告セグメントとしております。

「建設事業」は、主に賃貸マンション・住宅建築の請負を行っております。「不動産賃貸事業」は、マンション・住宅及び店舗の賃貸を行っております。「不動産売買仲介等事業」は、土地・建物の売買・仲介を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「重要な会計方針」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、経常利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部利益及び振替高は、市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前事業年度(自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額(注)1	財務諸表計上額(注)2
	建設事業	不動産賃貸事業	不動産売買仲介等事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,887,229	2,571,253	99,570	4,558,052	-	4,558,052
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	1,887,229	2,571,253	99,570	4,558,052	-	4,558,052
セグメント利益	171,756	80,727	27,675	224,808	144,754	80,053
セグメント資産	86,624	672,060	291,654	1,050,339	1,148,156	2,198,495
セグメント負債	513,838	346,124	851,131	1,711,095	264,133	1,975,228
その他の項目						
減価償却費	4,764	15,039	303	20,108	4,129	24,237
受取利息・受取配当金	-	-	-	-	1,019	1,019
支払利息	9,190	2,385	29,341	40,917	2,153	43,071
有形固定資産又は無形固定資産の増加額	-	781	-	781	7,094	7,876

(注)1. 調整額は以下のとおりであります。

- (1)セグメント利益の調整額 144,754千円は、主に報告セグメントに配分していない管理部門の一般管理費であります。
- (2)セグメント資産の調整額1,148,156千円は、主に報告セグメントに配分していない全社資産であり、主に現金預金及び本社の土地、建物であります。
- (3)セグメント負債の調整額264,133千円は、主に報告セグメントに配分していない全社負債であり、主に長期借入金であります。
- (4)減価償却費の調整額4,129千円は、主に報告セグメントに配分していない全社資産に係る減価償却費であります。
- (5)受取利息・受取配当金の調整額1,019千円は、主に報告セグメントに配分していない預金及び貸付金に係る利息であります。

- (6) 支払利息の調整額2,153千円は、主に報告セグメントに配分していない借入金に係る利息であります。
- (7) 有形固定資産又は無形固定資産の増加額の調整額7,094千円は、主に報告セグメントに配分していない会社資産の設備投資額であり、主に建物附属設備、工具器具・備品の増加額であります。
2. セグメント利益は、財務諸表の経常利益と調整を行っております。

当事業年度（自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日）

（単位：千円）

	報告セグメント				調整額(注) 1	財務諸表計上額(注) 2
	建設事業	不動産賃貸事業	不動産売買仲介等事業	合計		
売上高						
外部顧客への売上高	2,004,024	2,605,999	16,442	4,626,466	-	4,626,466
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-
計	2,004,024	2,605,999	16,442	4,626,466	-	4,626,466
セグメント利益	292,610	81,002	4,771	378,385	173,661	204,723
セグメント資産	84,742	663,001	240,584	988,328	1,020,235	2,008,564
セグメント負債	309,085	338,688	798,660	1,446,434	289,632	1,736,067
その他の項目						
減価償却費	5,676	14,966	207	20,849	6,826	27,675
受取利息・受取配当金	-	-	-	-	873	873
支払利息	2,649	2,075	29,382	28,808	1,746	30,555
有形固定資産又は無形固定資産の増加額	4,853	1,790	-	6,644	9,473	16,118

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額 173,661千円は、主に報告セグメントに配分していない管理部門の一般管理費であります。
 - (2) セグメント資産の調整額1,020,235千円は、主に報告セグメントに配分していない全社資産であり、主に現金預金及び本社の土地、建物であります。
 - (3) セグメント負債の調整額289,632千円は、主に報告セグメントに配分していない全社負債であり、主に未払法人税及び事業税であります。
 - (4) 減価償却費の調整額6,826千円は、主に報告セグメントに配分していない全社資産に係る減価償却費であります。
 - (5) 受取利息・受取配当金の調整額873千円は、主に報告セグメントに配分していない預金及び貸付金に係る利息であります。
 - (6) 支払利息の調整額1,746千円は、主に報告セグメントに配分していない借入金に係る利息であります。
 - (7) 有形固定資産又は無形固定資産の増加額の調整額8,473千円は、主に報告セグメントに配分していない会社資産の設備投資額であり、主に建物附属設備、車両運搬具、工具器具・備品の増加額であります。
2. セグメント利益は、財務諸表の経常利益と調整を行っております。

【関連情報】

前事業年度(自平成27年10月1日 至平成28年9月30日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	建設事業	不動産賃貸 事業	不動産売買 仲介等事業	合計
外部顧客への売上高	1,887,229	2,571,253	99,570	4,558,052

2. 地域ごとの情報

当社は海外への売上はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

当社には売上高の10%以上を占める特定顧客はありません。

当事業年度(自平成28年10月1日 至平成29年9月30日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	建設事業	不動産賃貸 事業	不動産売買 仲介等事業	合計
外部顧客への売上高	2,004,024	2,605,999	16,442	4,626,466

2. 地域ごとの情報

当社は海外への売上はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

当社には売上高の10%以上を占める特定顧客はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前事業年度(自平成27年10月1日 至平成28年9月30日)

該当事項はありません。

当事業年度(自平成28年10月1日 至平成29年9月30日)

(単位：千円)

	建設事業	不動産賃貸事業	不動産売買仲介等 事業	全社・消去	合計
減損損失	-	-	52,631	-	52,631

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前事業年度(自平成27年10月1日 至平成28年9月30日)

該当事項はありません。

当事業年度(自平成28年10月1日 至平成29年9月30日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前事業年度(自平成27年10月1日 至平成28年9月30日)

該当事項はありません。

当事業年度(自平成28年10月1日 至平成29年9月30日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

財務諸表提出会社の役員及びその近親者等

前事業年度（自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員	宇都晴美	-	-	当社代表取締役会長	(被所有) 直接 4.5%	被債務保証	被債務保証 (注3)	922,480	-	-
役員	外山武志	-	-	当社代表取締役社長	(被所有) 直接 3.9%	被債務保証	被債務保証 (注3)	968,330	-	-
役員 の近親者 が議決権 の過半数 を所有	(株)マイネ (注4)	静岡県浜松市 中区	1,000	不動産業	-	建物一括借 上	建物一括借 上(注2)	12,996	-	-
役員 の近親者 が議決権 の過半数 を所有	(株)アスリー ト(注5)	静岡県浜松市 中区	500	不動産業	-	建物一括借 上	建物一括借 上(注2)	11,991	-	-

- (注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
2. 価格等の取引条件は、市場の実勢価格等を参考にして、その都度交渉の上決定しております。
3. 提出会社の金融機関からの借入金について債務保証を受けているものであり、取引金額は平成28年9月30日現在の被債務保証残高であります。なお、保証料の支払いは行っておりません。
4. 当社代表取締役会長宇都晴美の近親者が議決権の100%を直接保有しております。
5. 当社代表取締役会長宇都晴美の近親者が議決権の80%を直接保有しております。

当事業年度（自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員	宇都晴美	-	-	当社代表取締役会長	(被所有) 直接 4.5%	被債務保証	被債務保証 (注3)	959,670	-	-
役員	外山武志	-	-	当社代表取締役社長	(被所有) 直接 3.9%	被債務保証	被債務保証 (注3)	971,320	-	-
役員 の近親者 が議決権 の過半数 を所有	(株)マイネ (注4)	静岡県浜松市 中区	1,000	不動産業	-	建物一括借 上	建物一括借 上(注2)	10,944	-	-
役員 の近親者 が議決権 の過半数 を所有	(株)アスリー ト(注5)	静岡県浜松市 中区	500	不動産業	-	建物一括借 上	建物一括借 上(注2)	840	-	-

- (注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。
2. 価格等の取引条件は、市場の実勢価格等を参考にして、その都度交渉の上決定しております。
3. 提出会社の金融機関からの借入金について債務保証を受けているものであり、取引金額は平成29年9月30日現在の被債務保証残高であります。なお、保証料の支払いは行っておりません。
4. 当社代表取締役会長宇都晴美の近親者が議決権の100%を直接保有しております。
5. 当社代表取締役会長宇都晴美の近親者が議決権の80%を直接保有しております。

(1株当たり情報)

第13期 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)		第14期 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)	
1株当たり純資産額	17.15円	1株当たり純資産額	20.93円
1株当たり当期純利益金額	6.07円	1株当たり当期純利益金額	5.73円
なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。		なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。	

(注) 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第13期 (自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日)	第14期 (自 平成28年10月1日 至 平成29年9月30日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(千円)	79,035	74,553
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	79,035	74,553
期中平均株式数(株)	13,020,000	13,020,000

(重要な後発事項)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

投資有価証券	その他有価証券	銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(千円)
		(株)清水銀行	1,000	3,600
		(社)静岡県宅地建物取引業協会	1	10
		全国不動産信用保証(株)	50	0
		計	1,051	3,610

【債券】

該当事項はありません。

【その他】

該当事項はありません。

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高(千円)	当期増加額(千円)	当期減少額(千円)	当期末残高(千円)	当期末減価却累計額又は償却累計額(千円)	当期償却額(千円)	差引当期末残高(千円)
有形固定資産							
建物	554,510	1,600	-	556,110	248,818	16,939	307,292
構築物	27,550	-	-	27,550	26,842	1,200	707
車両運搬具	2,819	5,954	-	8,774	3,671	1,601	5,102
工具器具・備品	53,153	7,413	7,280	53,287	45,039	3,230	8,247
リース資産	11,829	-	8,482	3,346	2,945	1,633	401
土地	854,619	-	52,631 (52,631)	801,987	-	-	801,987
有形固定資産計	1,504,483	14,968	68,394 (52,631)	1,451,057	327,317	24,605	1,123,739
無形固定資産							
電話加入権	4,912	-	-	4,912	-	-	4,912
ソフトウェア	15,117	1,150	2,040	14,227	10,343	2,080	3,883
リース資産	4,950	-	-	4,950	2,970	990	1,980
無形固定資産計	24,979	1,150	2,040	24,089	13,313	3,070	10,776
長期前払費用	809	449	297	961	-	-	961
繰延資産	-	-	-	-	-	-	-
繰延資産計	-	-	-	-	-	-	-

(注) 1. 当期増減額のうち主なものは次のとおりです。

建物	増加額(千円)	本社ビルトイレ改修	1,600
車両運搬具	増加額(千円)	営業用自動車 4 台	5,954
工具器具・備品	増加額(千円)	ビジネスホン	2,305
	減少額(千円)	パソコン、プリンタ等	7,280
リース資産	減少額(千円)	営業用自動車 1 台	8,482
土地	減少額(千円)	減損損失	52,631
ソフトウェア	増加額(千円)	ウェブサイト作成費	750
	減少額(千円)	積算システム	1,880

2. 「当期減少額」欄の()内は内書きで、減損損失の計上額であります。

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	75,000	-	-	-
1年以内に返済予定の長期借入金	136,514	131,147	1.52	-
1年以内に返済予定のリース債務	5,935	1,577	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	910,966	840,173	2.54	H30年～H45年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	2,721	1,143	-	H30年
その他有利子負債	-	-	-	-
計	1,131,136	974,041	-	-

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務の平均利率については、リース債務に利息相当額を含めて計上しているため、記載を省略しております。

3. 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の貸借対照表日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	118,131	114,963	111,581	84,843
リース債務	1,143	-	-	-

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	9,751	223	-	789	9,184
賞与引当金	13,373	-	13,373	-	-
完成工事補償引当金	4,381	5,624	4,381	-	5,624
家賃保証引当金	14,829	6,722	-	-	21,551
役員退職慰労引当金	16,897	1,638	-	-	18,535

(注) 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は洗替による戻入額であります。

【資産除去債務明細表】

該当資産等が存在しないため、計上しておりません。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

流動資産

イ．現金預金

区分	金額(千円)
現金	717
預金	
当座預金	16
普通預金	721,335
定期積金	9,000
別段預金	207
小計	730,558
合計	731,276

ロ．受取手形

相手先別内訳

手先	金額(千円)
株式会社神津製作所	211
合計	211

ハ．売掛金

相手先別内訳

該当事項ありません

ニ．完成工事未収入金

相手先別内訳

内容	金額(千円)
静岡市駿河区下川原・賃貸マンション新築工事	12,703
静岡市葵区馬淵・賃貸マンション新築工事	10,148
浜松市中区広沢・K邸改修工事	5,440
御前崎市池新田・賃貸マンション改修工事	4,702
その他	8,123
合計	41,118

完成工事未収入金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (千円)	当期発生高 (千円)	当期回収高 (千円)	当期末残高 (千円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	$\frac{((A) + (D)) / 2}{(B) / 365}$
33,305	672,839	665,027	41,118	94.1	20.1

ホ．未成工事支出金

工事名	金額(千円)
浜松市北区引佐町・賃貸マンション改修工事	789
静岡市葵区上土・賃貸マンション新築工事	92
掛川市南・賃貸マンション新築工事	38
その他	163
合計	1,084

流動負債

イ．工事未払金

相手先	金額(千円)
鈴木工業株式会社	12,301
ガステックサービス株式会社	8,364
株式会社山静	6,973
株式会社日成管興	5,312
上島建材株式会社	4,967
その他	82,424
合計	120,343

ロ．未成工事受入金

内容	金額(千円)
浜松市中区西浅田・賃貸マンション新築工事	81,500
掛川市南・賃貸マンション新築工事	46,494
藤枝市上青島・賃貸マンション新築工事	29,868
その他	16,030
合計	173,894

ハ．前受家賃

相手先	金額(千円)
一般顧客(借上賃貸住宅入居者)	114,469
一般顧客(自社所有賃貸住宅入居者)	950
一般顧客(自社所有ビルテナント入居者)	918
合計	116,337

固定負債

預り保証金

内容	金額(千円)
敷金及び入居保証金	64,334
合計	64,334

(3)【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	10月1日から9月30日
定時株主総会	12月中
基準日	9月30日
株券の種類	1,000株券、5,000株券、10,000株券、100,000株券
剰余金の配当の基準日	9月30日
1単元の株式数	該当事項はありません。
株式の名義書換え 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 名義書換手数料 新券交付手数料	名古屋市中区栄3丁目15番33号 三井住友信託銀行株式会社証券代行部 東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 三井住友信託銀行株式会社本支店 無料 1枚につき50円
単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料	該当事項はありません。 該当事項はありません。 該当事項はありません。 該当事項はありません。
公告掲載方法	官報による
株主に対する特典	該当事項はありません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類

事業年度（第13期）（自 平成27年10月1日 至 平成28年9月30日）平成28年12月21日東海財務局長に提出。

(2) 半期報告書

（第14期中）（自 平成28年10月1日 至 平成29年3月31日）平成29年6月27日東海財務局長に提出。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

平成29年12月19日

KONOIKE Co. 株式会社

取締役会 御中

公認会計士 浜松国際共同事務所

公認会計士 松島 知次 印

私は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているKONOIKE Co. 株式会社の平成28年10月1日から平成29年9月30日までの第14期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

私の責任は、私が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、私の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

私は、意見表明のための基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

私は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、KONOIKE Co. 株式会社の平成29年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表に添付する形で別途保管しております。
2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。